

第 50 号 2023 年 6 月

発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山
〒614-8372 八幡市男山笹谷 4-2 D19-106
TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746
e-mail：kosumosuot@gol.com
ホームページ検索用語 ⇒「コスモス男山」
<https://kosumosuot.sakura.ne.jp/hp/>



「コスモスだより」50号発刊に寄せて

2006年12月に創刊号が発行され早50号を迎えました。現在ある事業所「コスモス男山」は勿論のこと影も、形もない時代でした。16年間の様々な状況が走馬灯のごとく胸に去来します。「コスモスだより」は当初、会員相互の意見交換、コスモスでの活動を会員へ伝達する手段として位置付けされていましたが、今や地域に根差した広報的な役割も合わせ持ち、地域の中に溶け込んでいるといっても過言でないと思います。開設までの経過は至る所で報告しているので割愛しますが、「高齢者の居場所づくり」というこれからやっていこうとする活動の足掛かりを模索・構築する一というのが出発の原点だったという事だけ記しておきます。

さて50号を迎えるにあたって忘れ難いのは編集を担ってきた方の存在です。それぞれ個性を持った方々で紙面の性格は彼らによって規定された部分が大でありました。その中であってノリ鉄ファンで青春切符(この方当時60歳後半です)によって全国を普通列車で巡ったという記事を数回に分けて記事にした S・S さんはとてもユニークな存在でした。異色な編集者が今後も出てくるのを期待したいと思います。

最後に介護保険制度が出来て20数年が経ちます。女性を介護から解放する筈のこの制度がかなり劣化し、朽ち果てて仕舞うのか、再生可能なのか岐路に立っています。この制度を好意的にみるならば措置制度時代とは異なり介護サービスが充実し、選択の幅が増え、更に利用者数が飛躍的に増大した事にあるといわれています。しかし現状は高齢者の実態に即した介護度判定より保険者の立場に傾き過ぎているとも指摘されています。

介護が家族(女性)に回帰・逆行しないよう望むところです。

事務局 井上和彦

2024 年には医療・介護保険制度のダブル改定が行われる。『生活と自治』(生活クラブ生協)が、「介護崩壊」ストップ特集をアピールしている。

世界に先駆ける少子高齢化の渦中で(人は誰も老い、医療や介護の社会的支援を必要とする)日々を生活している私達は、国民の声を素通りして、憲法をも白紙化する時代に、どのように怒りの旗を立てるのか。私達一人、ひとりの、日々の重い課題である。「コスモス」と共に何ができるだろう？

理事 秋山花子



創刊号～第3号

「コスモスだより」50号発刊に寄せて
「コスモスだより」50号の発刊、心よりお祝いを申し上げます。

記念すべき50号の発刊を迎えられましたことは、皆様の日々のご努力の賜と心より敬意を表します。

私の父は「親の面倒は見なくていいから、好きに生きていいよ。」と私に言ってくれました。「子が親の老後をみるのが当たり前」の時でした。私が父の年になった今は、子供の世話にならず「自由なシニアライフ」を目指すなど考え方や社会の仕組みも多様になりました。「老後は一人暮らしも当たり前」の今、地域の拠点としての活動など様々な取り組みをされ、職員の方々の笑顔で丁寧な介護には安心や希望を感じます。

「コスモス男山」がますます発展されますよう心からご祈念し、50号の発刊に寄せてのお祝いの言葉とさせていただきます。

運営推進会議委員 奥平吉照

コスモス男山バンザイ！

「コスモスだより」50号お目出度うございます。ここまでも種々のご苦勞があったことと推察します。ぼくはこの10年余「おいでやすコスモス」で美味しいランチを頂いています。栄養バランスも良く、お陰様でぼくはまだ健康です。

人とのつながりを大事にし、一緒に美味しい食事が楽しめるのは、いきいきと生きるためにも、介護の現場でも大切です。

前号で紹介がありましたが、コスモス男山に移られて、精神状態が明るい方へ笑顔も出る方へ画期的に変わられた実例があります。この奇跡の様な大変化は、コスモス男山のスタッフ全員の介護内容の適格・良好さの表れです！

ランチを含め(笑)、コスモス男山の繋がりが、少しずつでも広がっていく事を祈っています。

運営推進会議委員 小笠原信

いつの間にか50号を迎えた「コスモスだより」ですが、その編集方針は一読者として考えますと、初刊より俯瞰的であったように思います。これからも俯瞰的発信を続けて欲しいです。

今後は、さらに地域の人たちに親しみのある、地域に貢献できる施設として、発展を目指して欲しいと思っています。この点で、介護予防を目的とした「きらっと☆シニア倶楽部」の取り組みは、素晴らしいと存じます。また昨今、高齢の一人暮らしが増加傾向にありますが、いまコスモス男山には「コスモス会」として、一人暮らしの人との繋がりを、ボランティアが支えておられますが、その拡がりに努力されることも非常に大切だと思われま。地域貢献に関しては、町ギャラリー・おいでやすなどに個人的に希望がありますが、最後にコスモス男山の発展を願ってペンをおきます。

理事/運営推進会議委員 黒澤喜美枝

「コスモスだより」50号記念に寄せて

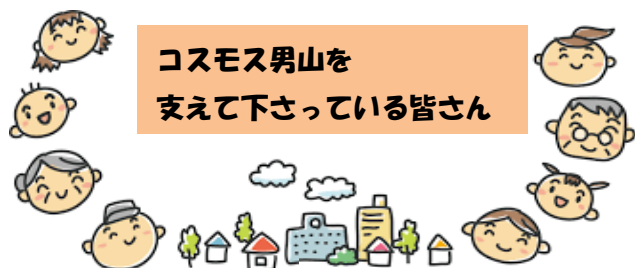
散歩や外出の途中で、コスモス男山の職員さんが何かの様子を窺っているみたいなの、誰かの後をつけているの？そんな場面に私は何度か遭遇してきました。そしてその前方には一人の利用者さんの姿が。

今日は暑いやん・・・、雨が降らなければいいけど・・・え、帰る時はどうするのん等々頭の中は考えがあちこちに飛びます。

16年前、地域密着型の小規模多機能居宅介護事業所へと歩き出した NPO 法人介護の家コスモス男山、次々と押し寄せる難題に、一理事として不安や心配も期待とわくわく感の方が勝っていました。

年々一歩ずつパワーアップをして、前述の見守り介護の介助者の眼差しや態度に、筋力は着実にインナーマッスルに迄付いて来ているのではと感じています。今は理事を離れましたがこれからもコスモス男山の哲学と理念の継続に応援を送ります。

元理事 坂本千恵



コスモス男山
を支えて下さっている皆さん

「コスモスだより」50号の発行 おめでとうございます。私の母がコスモスでお世話になった事から 10 年にわたるご縁になりますが、コスモスのあたたかい雰囲気は、ずっと変わりません。時々「おいでやす」でお昼ご飯を頂きますが、美味しくって幸せな気持ちになります。これからも、利用する人がホッと安らぐ、あたたかい居場所のコスモスを応援しております。

元運営推進会議委員 仁科法子

「コスモスだより」50号発刊に寄せて

「コスモスだより」創刊号で当時の理事長が“不安な時代だからこそ共に支えあい、高齢者のみならずすべての住民の憩いの場として、ケアの質の向上・職員の労働条件の整備を確立していく”と述べておられます。第 49 号では事務局長が“介護政策は全世代にわたるケアラー支援を大きな柱として、学校や地域、周囲の大人や介護事業所が(ヤングケアラーも含めて)サポートする体制を築いて行くことの必要性”を述べておられます。

これからのコスモス男山は、二人のお言葉が示す方向を目指してほしいと感じています。力不足ですが、そのお手伝いができればと思っています。

理事 椎名みゆき



60 代後半で福祉活動に携わったことで、住民の方がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていく為には、住民側も各種支援体制の理解に努め、有効に活用していけるよう声掛けしていくことが大切だとわかってきました。コスモス男山との出会いは私自身の活動の参考となり、目標も明確になってきました。

コスモス男山が、一人ひとりの違いを理解しそれを尊重したケアを提供されている様子、また利用者の皆さんが安心して身を委ねておられる様子を拝見して、開設よりの目標を着実に実現しておられることを強く感じています。

運営推進会議委員 濱川妙子

巻頭言は、難しいこともあります。普段考えたことのないことが書かれていたりして、参考になります。資格取得の際などに書かせていただいたことがあります。自分の文章力のなさや勉強不足を改めて考えさせられる機会になりました。

写真がたくさん入っていて、雰囲気が伝わりやすいので、利用者さんたちが外に出られて楽しそうにされている様子や、手作りおやつを作られている様子など、もっと載せられるといいと思います。

(栗山かおる 主任)

50号記念号を発行すると聞いて、これまでこの号を読み返してみると、利用者さんとの日々を振り返ることができて懐かしかったです。利用者さんの日常の風景が掲載されているページは、ご家族にもその場その場の雰囲気が伝わりやすくて良いなあと思います。だから、色々な機会に、できるだけ、利用者さんが活動される写真を撮ってもらおうようにしています。

(武元美由紀 副所長)

内容が多岐にわたっていて読み応えがあるというのが、率直な感想です。特に巻頭のページは書き手の思いが詰まっています。自分の知らなかったことに気づかされます。

利用者さんのページも充実しているので、コスモス男山の事をわかってもらえたら、と包括支援センターはじめ近隣の介護事業所などにも届けています。49号分、ざっと読み返してみると、自分を含めた事業所の歴史が見えてきます。これからも、コスモスの情報発信の一つとして続けていけたら、と思います。

(西村宜子 所長)

創刊号は平成18年12月「コスモス男山」の事業認可が下りた直後の緊張感の伝わる発行でした。用紙A3サイズ2つ折り、表裏4頁。簡素で単刀直入。コスモスの花びら5片に多機能型事業の説明を記し、会員と地域の方々の公開講座報告を掲載してあります。その3ヶ月後、事業所がオープンしました。ふり返って思うと「コスモスだより」と共に歩んできたのだと・・・。50号発行おめでとう！これからも、ずっと続くことを願います。

(三宅悦子 理事長)

利用者さんの笑顔の写真が載っている記事が好きです。お出かけだけでなく、手仕事や行事の中でみせてくれる皆さんの笑顔が微笑ましくて、嬉しくなります。

以前、毎年取り組んでいる新年の干支の飾りづくりについて書かせていただいたことがあります。文章が苦手な嫌だったのですが、利用者さんが色々なアイデアを出してくださったなあ、助けてもらったなあ、と、これまでの深かった関わりを次々に思い出し、胸が熱くなりました。

(汐池久子 介護職員)

色々なテーマに添って綴られ、参加が出来なかった行事も、写真や文字により、利用者様の自然な笑顔を拝見する事ができる「コスモスだより」は、毎号が楽しみです。

地域講習会や俳句、短歌など地域の皆様とコスモスの繋がりを感ぜられる事も、素敵ですね。

(栗林民恵 調理担当)

介護や調理スタッフ、喫茶のお客さん、近所の方など様々な人の想いや、世の中の流れ、災害時の事、等々毎号幅広い記事であきません。次、何しよう？と考える編集委員の方々の大変さが伝わります。

新企画として20代の若者に書いてもらう記事はどうでしょう。高齢者問題とか、最近電車で会ったおばあさんの話とか、子供の頃の祖父母の話とか。家で老人と接したことのない若い人は、全く異世界とったり、認知症なんか宇宙人くらい遠い人と思ってるかもしれないけど、現代の大きな問題だから。いろんな若者の記事のページができれば読む人も楽しいかもしれません。

(大塚秋子 看護職員)

今までは看護師しかできなかった喀痰吸引が、法律の改正によって介護福祉士も資格を取れるようになりました。コスモスでも栗山さんが頑張って取得し、早速業務に従事出来るようになったことが「コスモスだより」で紹介されましたが、こういったニュースをお届けできたことで、利用者さんや家族の方は、大変心強く、安心されたのではないかと思います。

(堀之内みち子 介護職員)

週一回の昼食作りをさせていただいてもうすぐ350回目になります。まだまだ「コスモス男山」のこと知らないことばかり。でもこの「コスモスだより」があり、いろんなことを知ることができました。印象に残った記事は第49号の利用者さんのご家族の想いです。利用者さんに対するやさしさと深い愛を感じました。自分もそうできていたらなと強く思いました。

(井村貴枝子 調理担当)

個人的には利用者さんと季節の花などの写真が載っている紙面が好きです。読者の方も楽しんでおられるのではないのでしょうか。それから同僚の書いた文章を読むことも、なるほど、と思うことが多く、刺激になっています。

職場全体が仲良く、みんな笑顔で過ごしているの、その雰囲気が伝わればいいなあと思っています。

(工藤昭子 調理担当)

喫茶「おいでやすコスモス103」もおしゃれな店なので、「コスモスだより」でもっと宣伝しては？と思います。

(角都 介護職員)

自分が勤務し始めてからの「コスモスだより」は、全部保管しています。読み返してみると、やはりクリスマス会やひな祭りなどの行事の記事に目が行きます。

印象に残っているのは、コスモス祭りについての記事です。コロナでもう3年できていませんが、利用者さんだけでなく、ご家族も参加されてとても喜んでおられたことが、忘れられません。ちなみに私は、たこ焼き担当でした。

(澁谷ちなみ 介護職員)

私がコスモスで仕事を始めたのは4年前。初めて「コスモスだより」に出会ったのはコロナ前でした。保育園児との交流記事やボランティアの方々が来られ楽しませて下さる様子、コスモス祭りで盛り上がる様子が印象的でした。利用者さんが、また外部の方々と交流できる日が一日も早く来ることを願っています。

(津野法子 介護職員)



コスモス男山 職員のおへや

「コスモスだより」2006年12月創刊から50号、おめでとうございます。八幡市では人口の約30%が高齢者です。そして第一次ベビーブーム世代が介護を必要とする年代に入り、高齢者が高齢者の介護を行うのが昨今の状況です。

運営委員会では、他施設からコスモス男山に移って、以前より表情が明るくなったとか、コスモス男山に決断された思いなどのお話をご家族から伺うことができました。こういった感想は、利用者や家族の方に安心感を持ってもらえるだけでなく、職員の皆さんが聞かれても励みになることだと思います。もっと「コスモスだより」で伝えてほしい内容だと思います。

(矢野輝夫 配膳職員、運営推進会議委員)

読者からのおたより紹介

「コスモスだより」第50号の発刊おめでとうございます。「コスモス男山」を立ち上げられて16年。時代の要請にこたえながら、なおこれからはどうあるべきかを常に考えられて、今日あるんですね。私は遠く離れています。この近くに越してきて老後を送りたいと思います。通って来られる方、その家族の方、職員の方々のなごやかな日常が目に見えるようです。どうか、これからもお世話になりたいと思われる場であって欲しいと思います。

富山在住 渡辺康子

交差点のイメージがある。生死という抽象的なものでなく、介護そのものが生活の顔を持っている。「コスモス男山」という施設が、男山団地に在ることが、その地域性ゆえに活動が外へ開かれているともいえるし、同時に閉じられているともいえる。どのように打開するか。小さな事では「図書室」に読書ノートを置く、時間がかかるが、市の福祉を巻き込んで、地域の子供たちとの交流会などを企画し、継続した活動へ繋げること。

橋本在住 北岡敏範

以前、枚方市で「ふえみん」で活動していたのですが、高齢化の波に勝てなくて（私も87歳）現在は休止しています。今は「高齢社会をよくする会」に属し、ゆっくりと活動しています。（コスモス男山の理事の）秋山さんたちが元気に活動しているのでうれしく思っています。またこれからも「コスモスだより」にて“お顔を見る”のを楽しみにしています。

枚方市在住 村田孝子



いつも元気なドライバー からもひと言

冒頭の挨拶文では、最近の世相を反映した内容を、あらゆる切り口からの介護の考え方等が書かれており、いつも教えられ、気付かされながら読んでいます。コスモスアラカルトもコスモス文芸もそれぞれ特徴があり、良いと思います。その中でも私は、コスモスアラカルトの記事が一番気に入ります。季節折々の行事に合わせてコスモス独自の催し物を楽しんでいます。クリスマス会、誕生日会、花見等で利用者さんが、参加されて楽しく時間を過ごされている記事が最高です。これが全てを物語っていると私は思います。利用者さんの笑顔が私達のやりがいに繋がっているのは間違いありません。利用者さんの元気な姿を少しでも多く載せられることを期待します。

田中一夫 送迎担当

「コスモスだより」で私が一番いいと思うのは、コスモスでの活動行事が、写真で載っているところです。桜が咲いた時は皆さんで花見にどこどこに行きました、市民の森に散策に行きました、行った皆さんが笑顔で輪になっている写真が掲載されている。

日頃、皆さんと一緒に過ごされている所を写真で掲載し、家族の方への情報を伝える最高の手段だと思います。是非続けて下さい。

井上士郎 送迎担当

編集者のつばやき



第 42 号より



第 29 号より



第 44 号より

外部からのお手伝いだったので、編集業務が主としてネットでのやり取りでした。ということから施設内での現場感覚が薄く、えてして、想像や空想をテコにして文面をなぞる不安がついて回りました。そして、利用者さんのご家族や読者の方々のお顔や目線の実存に認識不足がありやなしやとの自問自答が常にありました。そうした気持ちと与謝蕪村さんの俳句から拝借すると、“朝霧や画(え)に描く夢の人通り”でした。

編集委員会での討論では、何を読者に届けるか、人間尊重の視点を忘れていないか、そのことを記事の隅々まで確かめながら進行する必要があるでしょう。手作りで、篤い気持を届ける『コスモスだより』であることを願っています。

三上正禮(第 32 号～第 46 号担当)



第 34 号より



第 46 号より

「コスモスだより」のお付き合いは、5 年前、「よむよむ」のメンバーとして紙芝居をさせて頂いた記事を掲載してもらって以来です。

3 年前からパート職員として事務局に入り、昨年からは「コスモスだより」を読む立場から、編む立場に変わり、今、生みの苦しみを味わっています。残念なのは、印刷された「コスモスだより」を開く瞬間のわくわく感が無くなってしまった事。だって、その時にはもう隅々から隅まで内容が分かってしまっていますから。

光成明子(第 47 号担当)

私は 8 年間、編集に携わりました。利用者さんの様子を、できるだけ生き生きと伝えるよう心がけました。それが「コスモス アラカルト」という欄です。誕生日会やお花見、ものづくりやゲームなどに一緒に参加し、楽しみながら取材しました。裏方の調理の方に登場してもらったこともあり。食事を作り、盛りつけ、配膳し、食べていただくまでの流れを紹介した記事は、私の自信作です。

ホームページ作成にも挑戦しましたが、悪戦苦闘。結局、セミプロの方にバトンタッチしました。面倒な更新をまめに保つてくださる現スタッフに感謝しています。

「コスモスだより」を地域の方々にもっと沢山配布して、高齢社会について一緒に考えていただくきっかけになるといいなあと思っています。

河上高志(第 18 号～第 41 号担当)



第 45 号より



第 40 号より



第 39 号より

設立 10 周年の記念行事。コスモス男山の歩みをまとめた資料と共に、「コスモスだより」の創刊号と 2 号を印刷して配布しました。立ち上げの息吹がそこにはあり、その原点を皆さんと共有したかったからです。一端であるとはいえ、コスモスの歴史そのものだと思います。

三上さんが編集長になって下さった数年前から「コスモスだより」の編集委員となり、今に至っていますが、コスモス男山というささやかな場で出会った私たちの多様な視点、多様な願いや言葉、生活が行き交う相を紙面に掬い取りたい、というのが私の願いです。

皆さんの率直な感想、意見、投稿が、「コスモスだより」だけでなくコスモス男山も NPO 法人も育てていく。これからもどうかよろしく願います。

萬田久美子(第 42 号～担当)

7月	6月	今後の活動予定												3月	2月								
1日	4日	1日	19日	15日	3日	14日	10日	31日	27日	25日	25日	21日	20日	15日	3日	1日	25日	25日	22日	13日	9日	7日	1日
夏季賞与支給	第18回定時総会	コスモスだより第50号発行	常勤研修(地域とコスモス男山について)	第1回 運営推進会議	5日 枚方市民の森散策	第1回 定例理事会	常勤研修(小規模多機能について) 6名	常勤研修(NPO法人について) 6名	30日 お花見(さくら近隣公園、あらかし公園)	食品衛生管理者講習 1名	八幡支援学校生徒見学 1名	認知症対応型サービス事業開設者研修 1名	第6回運営推進会議	17日 八幡支援学校生徒実習 1名	3月中 BCP策定講習会 オンライン 6名	処遇改善交付金支給(後期)/2022年度労働条件通知書交付	八幡市多職種連携を考える会 3名	D棟集会所リニューアルイベント(ベトナム文化交流) 協力	交響プロジェクトパートナーシップミーティング オンライン 1名	14日小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 1名	福祉送迎運転者講習 2名	セミナー「地域活動団体の後継者育成と事業承継」オンライン1名	コスモスだより第49号発行



☆ ご寄贈いただきました

- ・ふきよせさんより捨て布を
- ・多くの方から 花、野菜、果物、菓子類、布地を

ありがとう
ございました



井上 一枝

「コスモス男山」の開所から15年を経過し「コスモスだより」の発行も50号に至り感無量です。沢山の方々に支えられてきました。ご協力、ご支援に改めて感謝いたします。毎号の巻頭言はじめ、紙面は、時々刻々の時代の風と社会の在り方を提言し、また確認してきたのではないかと思っております。会員の皆様方始め多くの方々のご意見、思いが浮かんで参ります。

今後は在宅支援という大きな課題を共に取り組んでいく時代になるだろうと思っております。発行の継続を願いながらどのような形、内容になるのか共に考え歩んで参りたいと思っております。よろしくお願い致します。